

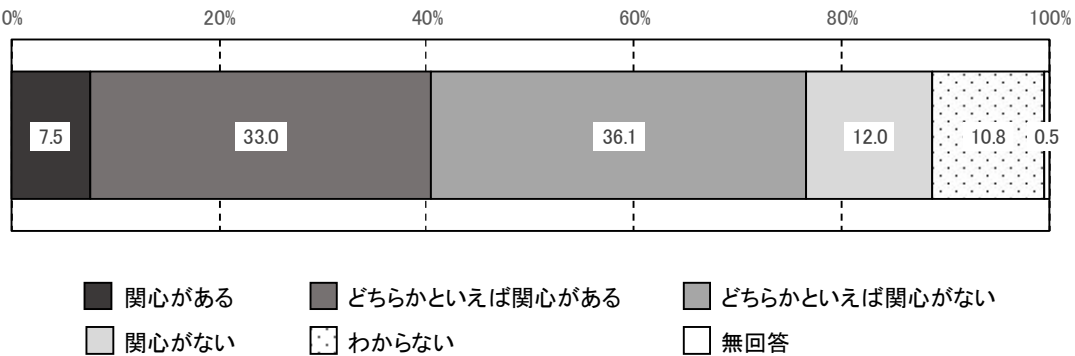
問9 県事業への関心の有無

問9 あなたは、岐阜県が行っている事業やその進め方について、関心をお持ちですか。
(1つだけ)

全体(図9-1)で見ると、「どちらかといえば関心がない」が36.1%と最も高く、次いで「どちらかとかえれば関心がある」(33.0%)、「関心がない」(12.0%)の順となっている。

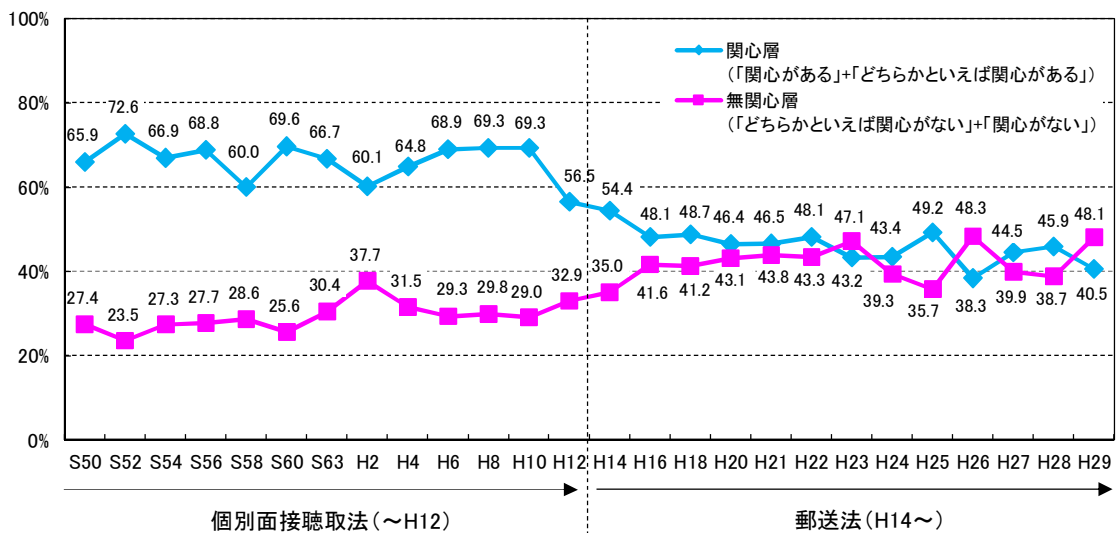
図9-1 県事業への関心の有無

回答者数(n=1,522)



経年変化(図9-2)で見ると、前回に比べて「関心層」(「関心がある」+「どちらかといえれば関心がある」)は5.4ポイント減少し、「無関心層」(「どちらかといえば関心がない」+「関心がない」)は9.4ポイント増加しており、「無関心層」が「関心層」を逆転している。

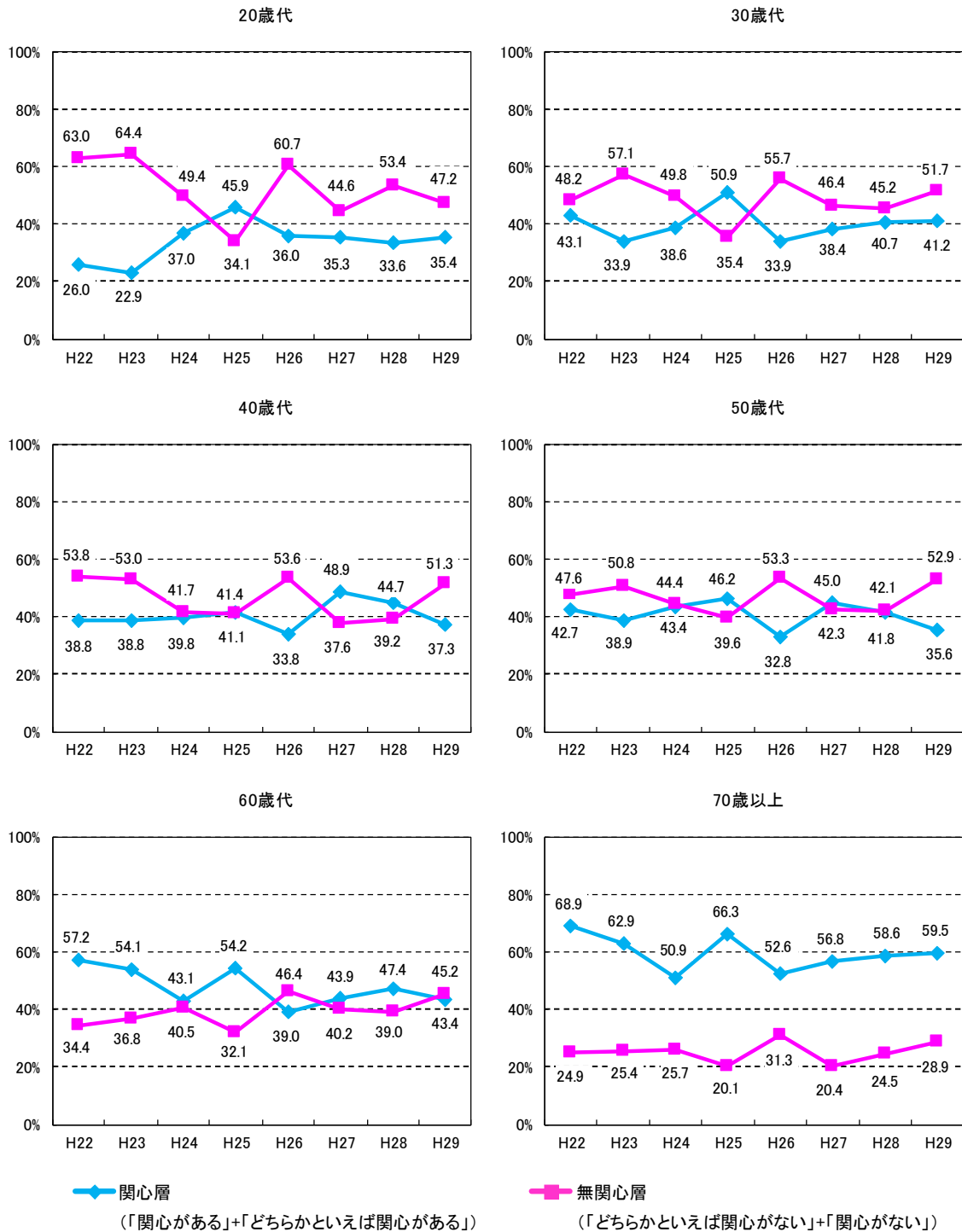
図9-2【経年変化】県事業への関心の有無



※ 調査方法:平成12年度まで個別面接聴取法、平成14年度から郵送法

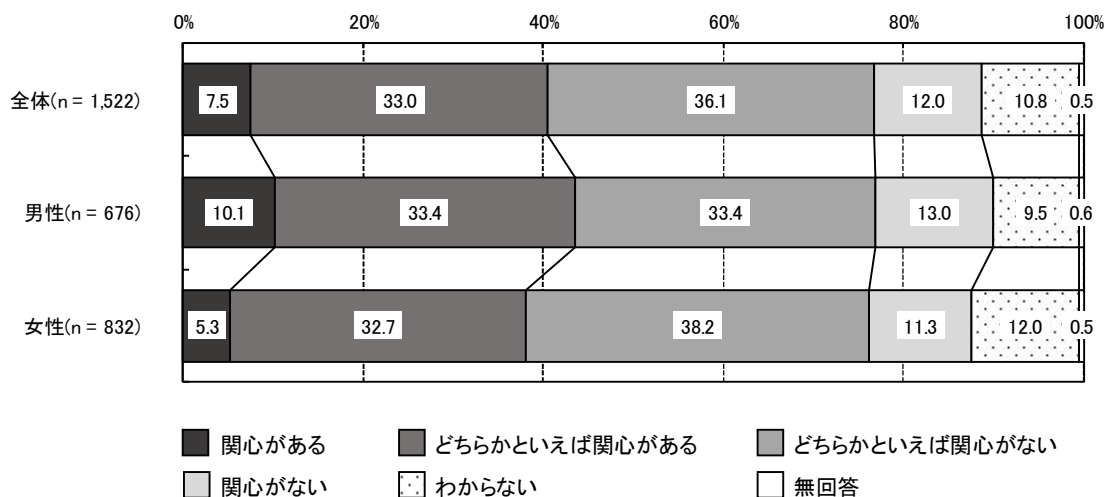
年代別の経年変化（図 9-3）でみると、前回に比べ、40 歳代、60 歳代で「無関心層」が「関心層」を逆転している。70 歳以上では一貫して「関心層」が「無関心層」より高くなっている。

図 9-3 【経年変化(年代別)】 県事業への関心の有無



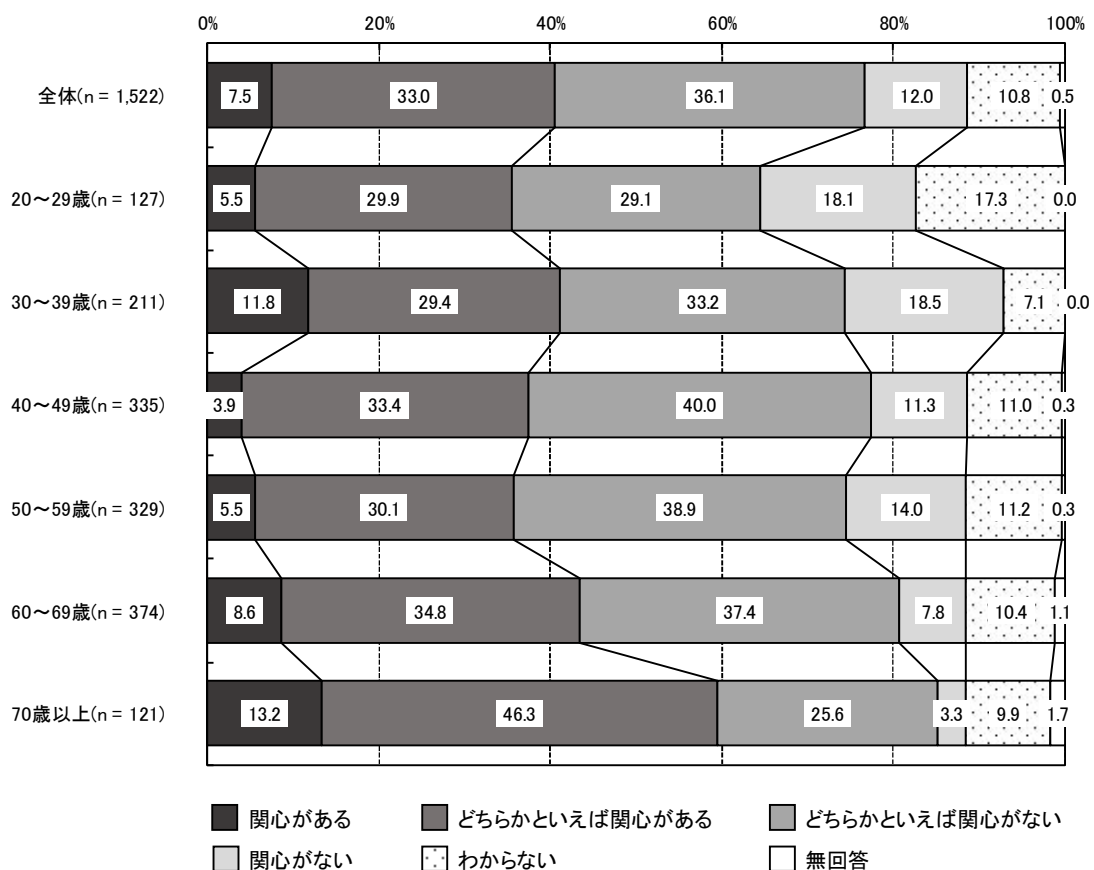
性別（図 9-4）でみると、男女ともに「どちらかといえば関心がない」が最も高く、男性は「どちらかといえば関心がある」も同じく 33.4%と最も高くなっている。「関心がある」では、男性が女性より 4.8 ポイント高くなっている。

図 9-4 【性別】 県事業への関心の有無



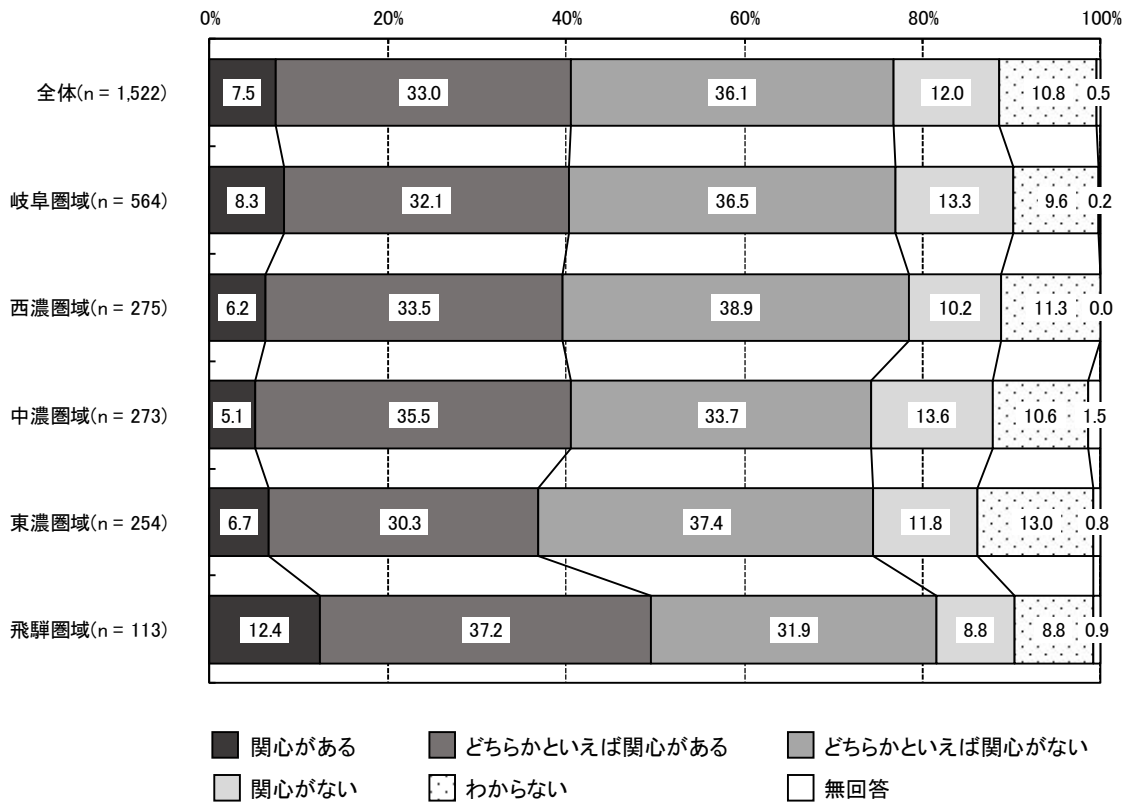
年代別（図 9-5）でみると、20 歳代、70 歳以上で「どちらかといえば関心がある」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 46.3%と最も高くなっている。30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代では、「どちらかといえば関心がない」が最も高く、そのうち 40 歳代が 40.0%と最も高くなっている。

図 9-5 【年代別】 県事業への関心の有無



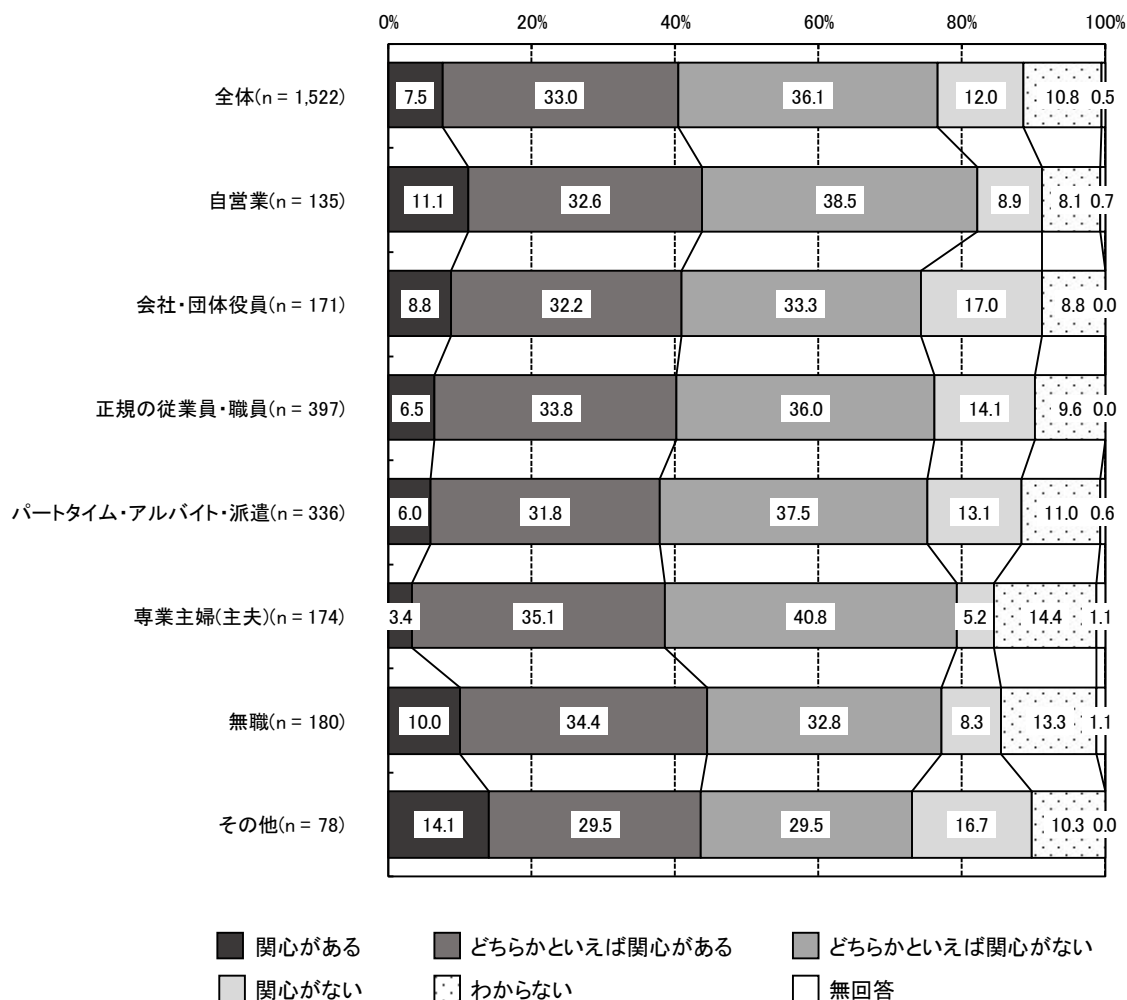
居住圏域別（図 9-6）でみると、中濃圏域、飛騨圏域においては「どちらかといえば関心がある」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 37.2%と最も高くなっている。岐阜圏域、西濃圏域、東濃圏域においては、「どちらかといえば関心がない」が最も高く、そのうち西濃圏域が 38.9%と最も高くなっている。

図 9-6 【居住圏域別】 県事業への関心の有無



職業別（図9-7）で見ると、無職を除くいずれの職業においても「どちらかといえば関心がない」が最も高く、そのうち専業主婦（主夫）が40.8%と最も高くなっている。無職では「どちらかといえば関心がある」が34.4%と最も高くなっている。無職では「どちらかといえば関心がある」が34.4%と最も高くなっている。

図9-7 【職業別】 県事業への関心の有無



※ その他には、自由業、学生を含む